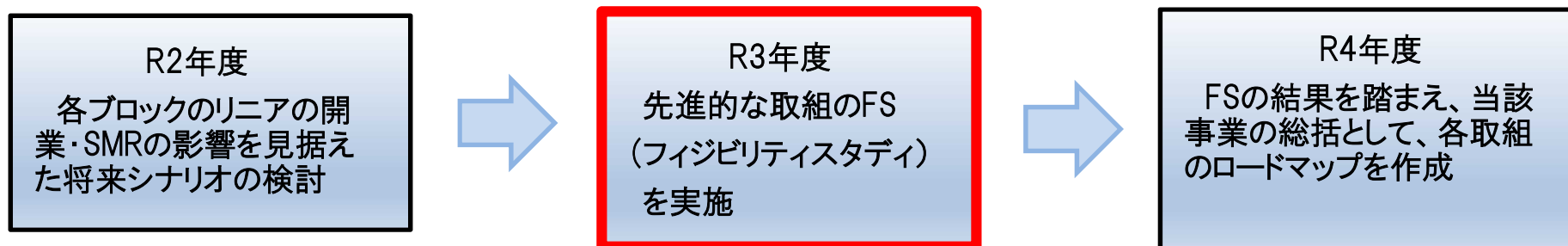


■ SMRの取組状況

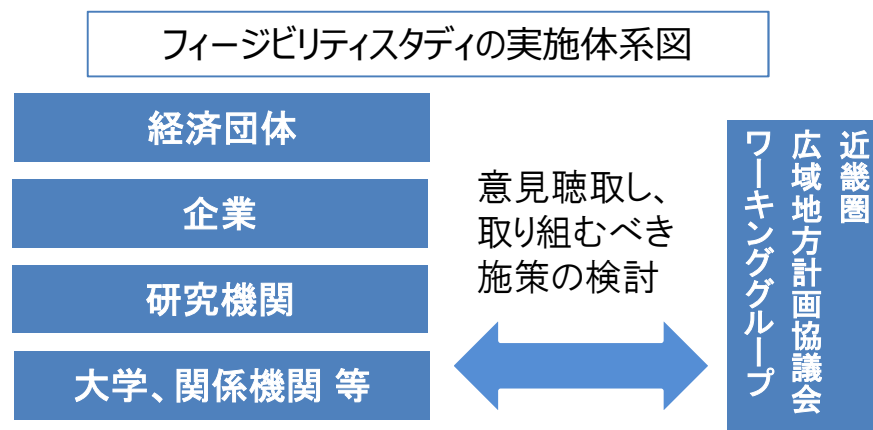


■ 具体的実施内容

- ① SMR形成による地域へもたらす影響を検討。
- ② 関西圏の企業(研究機関、観光、都市開発、イノベーション関連)計7社にアンケート・ヒアリングを実施し、ビジネススタイル・ライフスタイルの変化を踏まえたうえで、課題の把握・要因を分析し、今後取り組むべき施策を検討。

■ 質問項目

- I. リニア中央新幹線の整備により享受する影響について
- II. 都市機能を高度化するために求められる機能について主な意見
- III. 関西圏と西日本地域との連携強化について



SMR（スーパーメガリージョン）令和3年度調査結果について（近畿圏）

■ヒアリング調査内容及び主な意見

ヒアリング内容	主な意見	具体的な取組・課題
<p>I. リニア中央新幹線の整備により享受する影響について</p>	<p>■ 世界を相手に出来る、日本のポテンシャル向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界からみれば、関西や東京等の都市ではなく、日本という国で捉えられている。(イノベ) ・現在の問題として日本の大学で開発されたものが米国や中国に持っていかれており、世界を相手にした場合、東京と大阪が一つになる必要がある。(イノベ) <p>■ 移動時間短縮による、ビジネス交流の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京・大阪の日帰り出張はあるが、時間的制約等から遠慮がちである。(研究) ・移動時間の短縮やミーティング時期が早まることでビジネス全体のスピード感が早まる。(イノベ) <p>■ 付加価値の高いものづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付加価値の高いものづくりに取り組むためには、対面で話し合う必要がある。(イノベ) ・付加価値の高いものとは、人間の感性や感情、感覚を取り入れたプロダクトやサービスのことである。(イノベ) <p>■ 対面による、コミュニケーションの活発化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEB会議によりコミュニケーションの量は増加したが、質は薄くなっている。(都市開発) ・リニア中央新幹線の整備により対面によるコミュニケーションが加速するのではないか。(研究) <p>■ 人材の流動化が必要であり、新しい働き方への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、働く場と住む場の考え方が変化している。(都市開発) ・人材の流動化が必要であり、多様やダイバーシティーは重要なキーワードであるため、企業内に埋め込んでいくことで変化対応力の強い企業になる。(研究) <p>■ これからの人口構造の変化により、交流人口が拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから人口構造が大きく変化する。(観光) ・常住人口だけではマーケットが成り立たない地域が出現している。(観光) <p>■ MICEへの影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在エクスカーションとして大型バスで周遊しているが、リニア中央新幹線が整備されると、さらに遠方まで足を運ぶことが可能となり、団体で移動することがなくなる。(観光) 	<p>■ 関西、東京等の都市で無く日本という国で捉えて、イノベーションを起こす必要がある</p> <p>■ 付加価値の高いものづくりに取り組むために対面で話し合う必要があり、「モノ」でなく、「サービス」を売るビジネスモデルの転換</p> <p>■ 羽田・成田がある首都圏と一体化になるので一極集中型のおそれ</p>

SMR (スーパーメガリージョン) 令和3年度調査結果について(近畿圏)

ヒアリング内容	主な意見	具体的な取組・課題
<p>Ⅱ. 都市機能を高度化するために求められる機能について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 投資先としての魅力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・投資先として大阪の魅力を上昇させることが大事。(都市開発) ・投資先としての魅力・シティプロモーション、ブランド価値をを上げる必要がある。(都市開発) ■ 街に来てもらえる都市としての価値向上 <ul style="list-style-type: none"> ・まちに来てもらうための価値が求められている。(都市開発) ・その地域に強いコンテンツや魅力があるかどうかであり、それがあれば多くの人が来たいと思う。(都市開発) ■ 温浴施設や公園等のコト(体験)消費型の拠点形成 <ul style="list-style-type: none"> ・コト消費の充実が求められている。(都市開発) ・うめきたでは、コト消費に重点を置き、温浴施設や公園でのアクティビティを検討している。(都市開発) ■ 時代に見合ったインフラの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・都市部においては、インフラストックを如何に有効活用していくかという時代になってくる。例えば、道路構造を変えて歩行者空間を広げたり、公園の使用ルールを変更していくことなど。(都市開発) ■ 観光資源の更なる活用 <ul style="list-style-type: none"> ・その地域ならではの価値を上げていく必要がある。(観光) ・その地域で、観光客がお金を使える仕組みをつくれるかが重要になる。(観光) ■ 海外の要人やライフスタイルホテル等、多様化する宿泊客への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・海外の要人を受け入れることができない。(都市開発) ・ライフスタイルホテルの需要が増えている。(都市開発) ■ 本社やサテライトオフィス等、オフィスのあり方の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・本社であるセンターオフィスの考え方が変化している。(都市開発) ・サテライトオフィスの重要性が高まっている。(都市開発) ■ 様々なプレイヤーが協議しながらオープンイノベーションの活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション拠点があるまちというのが評価されるようになってきている。(イノベ) ・様々なプレイヤーがお互いに協議をしながら進めるということがイノベーションのためには必要である。(イノベ) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 投資先としての魅力向上のため拠点の磨き上げ ■ コト(体験)消費型の拠点形成のための公園等整備 ■ 時代に見合ったインフラの活用のためのルール見直し ■ 観光資源の活用に繋がる磨き上げ ■ 多様な宿泊施設の整備 ■ オフィス・企業の集積 ■ イノベーション施設の設定

SMR (スーパーメガリージョン) 令和3年度調査結果について(近畿圏)

ヒアリング内容	主な意見	具体的な取組・課題
<p>Ⅱ. 都市機能を高度化するために求められる機能について</p>	<p>■ 開発商品の積極的なPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の研究所がさまざまな場所にある。(都市開発) ・さまざまな企業の研究所のショールームを設け、最新の研究結果を見ることができたり、体験ができるようにし、それらをフィードバックすることにより、新しいビジネスが生まれたら良いと思っている。(都市開発) <p>■ 企業活動において必要とされるインフラ整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこかに移動しなくても、交通結節点ですべてのことを終わらせる施設があっても良い。(研究) ・新幹線と在来線、路線バス等、さまざまな交通手段のダイヤがバラバラでシームレスな移動が出来ない。(研究) <p>■ うめきた2期の拠点性を更に活性化させるために望むインフラ整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅・地下街の老朽化、商業施設の再開発等があり、そのタイミングで歩きやすいルートや地下街の改修が必要である。(都市開発) 	<p>■ 企業ショールームの設置</p> <p>■ 将来を見据えた交通結節点の整備</p> <p>■ 歩きやすいルート整備</p>
<p>Ⅲ. 関西圏と西日本地域との連携強化について</p>	<p>■ 西日本へ来て貰うための魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京～大阪間の所要時間が短縮すると西日本に来る可能性は高くなるが、魅力が無いと来ない。(観光) ・西日本との連携を考えるのであれば、中国・四国地方の魅力を引き出す必要がある。(観光) ・地域の魅力を引き出すには地域の頑張りが必要でどれだけ本気になれるかに掛かっているが、高齢化の進展により地域に対する強い思いの人が殆どいない。(観光) <p>■ 西日本への広域観光促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西のオーバーツーリズムの解消には、瀬戸内は役に立てると考える。(観光) <p>■ 魅力的な航路の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上交通は単に移動するだけでなく、風光明媚なルートを運行し、目的地である島に魅力的なところがあれば非常に良い。(観光) ・一からクルーズをつくることは、かなりの力技で資金も必要。(観光) 	<p>■ 関西と西日本での移動しやすさ・交通モードの充実</p> <p>■ 広域観光を促進する観光施策の実施</p> <p>■ 風光明媚なルート運行による魅力的な航路の有効活用</p>

■ これまでの調査結果を踏まえたロードマップ策定に向けての令和4年度の作業及びスケジュール

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
近畿圏広域地方計画協議会	R3FSを受けた課題・対応策の分析			原案作成	関係者とのとりまとめに向けた調整 (大阪府・大阪市) (JR東海・西日本等)		近畿圏広域地方計画協議会 幹事会	関係者とのとりまとめに向けた調整 (大阪府・大阪市) (JR東海・西日本等)		近畿圏広域地方計画協議会	ロードマップ策定・公表
	関係者ヒアリング										
	WGにて骨子案検討										
三大都市圏ブロック及び西日本ブロックとの連携、調整											

- 5月 近畿圏広域地方計画協議会
- 6月～9月 近畿圏広域地方計画協議会WGにて骨子案の検討
関係者ヒアリング（経済団体）
- 9月 近畿圏広域地方計画協議会WGによる骨子案作成
- 10月～2月 関係者とのとりまとめに向けた調整
- 12月 近畿圏広域地方計画協議会幹事会
- 3月 近畿圏広域地方計画協議会
ロードマップ策定・公表